

京都市の学校評価システム

令和2年度実施状況

—学校・家庭・地域が「自らを振り返り」「互いに高め合う」—

令和3年9月

京都市教育委員会

目 次

1 京都市における学校評価の考え方	．．．．．	1
2 学校評価の現状や課題等	．．．．．	4
3 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」 による第三者評価	．．．．．	7
〔参考〕		
京都市立安朱小学校における実践事例	．．．．．	9

1 京都市における学校評価の考え方

本市では、「保護者・地域等の参画による開かれた学校づくり」のもと、市民ぐるみ・地域ぐるみで「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」教育を推進するため、学校・家庭・地域が相互に高め合う「京都方式」の学校評価を、全国に先駆けて実施し、「学校運営の組織的・継続的な改善」「教育活動の質的向上」等に努めてきた。制度導入からの経緯はP1 [参考1-1](#)のとおりである。

国においては、平成19年に学校評価に関する法令の改正が行われ、「学校による自己評価の実施とその公表、教育委員会への報告」が義務化されるとともに、「自己評価結果に対して保護者、地域の方々など学校関係者による評価を得ること」も努力義務化された。更に、法令上の義務付けのない第三者評価として、本市では学校評価の実施状況について客観的に検証し、学校の教育の質の向上につなげるため、学識経験者等による「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」を設置している。P2 [参考1-2](#)参照。

現在、「京都市学校評価ガイドライン（第3版）」に基づき、次の4点を柱とし、各学校・園において、学校運営協議会等と密接に連動しつつ学校評価の充実に努めている。P2 [参考1-3](#)、P3 [参考1-4](#)参照。

(1) 学校評価をみんなのものにする

各学校では、学校教育目標やその実現に向けての具体的実践に関わる評価内容を全教職員が共有し、今後の教育活動の改善に向けた行動につなげている。併せて、保護者・地域の方々が参画する学校運営協議会等による「学校関係者評価」の評価結果の公表を行うことにより、「みんなごと」として取り組む学校評価は、子どもたちの学校生活を「地域ぐるみ・市民ぐるみ」で「よりよいもの」とする上で、重要な役割を担っている。

(2) 当事者意識を持って評価する

評価の実施にあたっては、評価者自身がよりよい学校づくりを進める当事者であるという意識を持つことが肝要である。このため、学校関係者評価においても、「学校の自己評価結果に対する評価」に加え、社会の宝である子ども、学校のために何ができるか、「自分ごと」として捉え、「学校の課題を把握し、課題解決に向けた支援策」を学校運営協議会等で協議、行動に繋げていただくことになっている。

(3) 自らを振り返り、互いに高め合う

本市では、評価を行う者が足りないところを批判するだけではなく、同じ目標を実現するためにそれぞれの立場で自らを振り返ることを重視してきた。「教職員は自らの教育活動や指導を振り返る」「保護者は自らの子育てを振り返る」「地域は子どもへの関わりを振り返る」、そして「子どもたちは、自らの学習や活動に向かう学びの姿勢を振り返る」など、お互いに補い合い、高め合う確かな信頼関係の下での学校評価を進めている。

(4) 学校の魅力を発見し、発信する

学校の魅力や課題の発見、その向上や克服のためには、教職員をはじめ保護者や地域の方の理解が深まり、協働が得られるような工夫の下での情報発信が必要である。

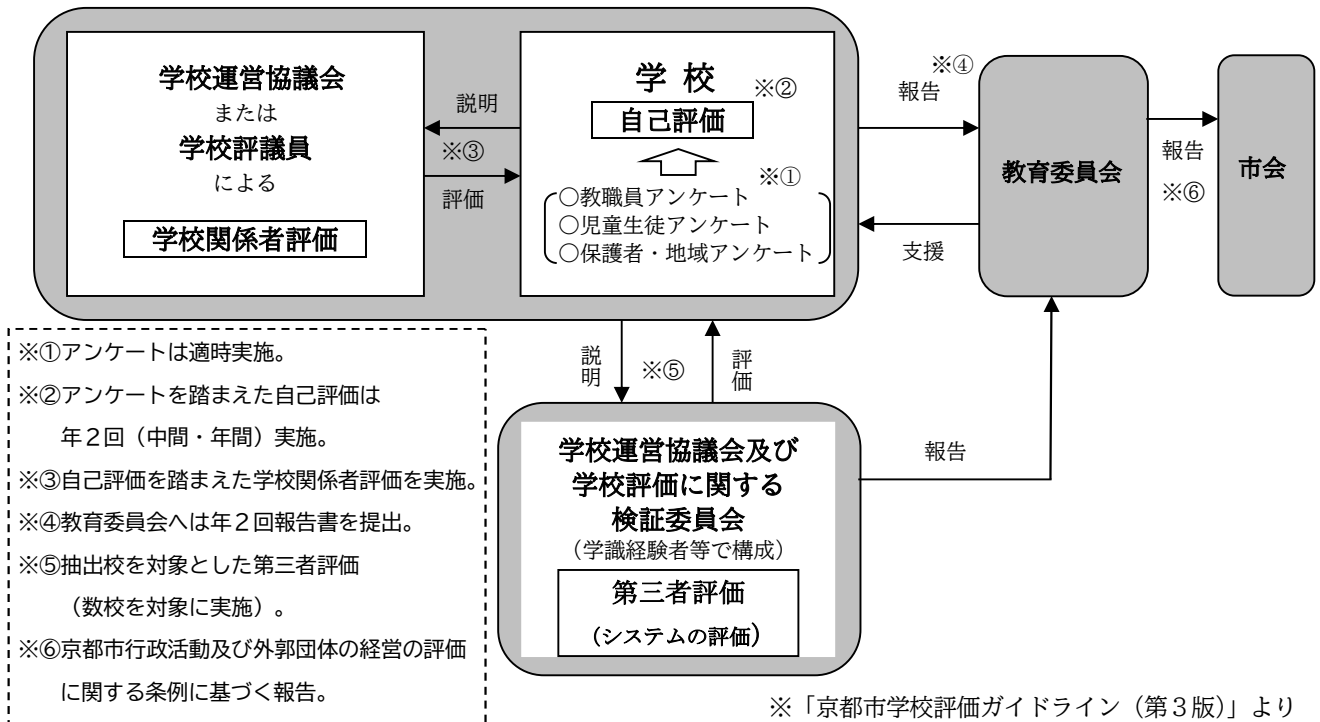
そのため、本市では、独自に開発した「学校評価支援システム」を導入し、アンケートの作成・集計・分析の効率化を図りつつ、アンケート結果や取組の成果、課題に対する改善策等をわかりやすくまとめ、全校のホームページへの掲載や学校だよりの配布等を通じて積極的に情報を発信している。

参考1-1 制度導入の経緯

平成13年	学校評価の試行実施（校長会との共同プロジェクト発足）
平成15年 4月	全国に先駆けて全校・園で学校評価を開始、「京都市学校評価ガイドライン」の策定
平成16年 3月	全校・園での評価結果の公表
平成19年 4月	「京都市学校評価ガイドライン」の策定（第2版）
平成19年 6月	「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」の施行 学校教育法の改正（学校評価の根拠規定、学校の積極的な情報提供についての規定を新設）
平成19年 7月	「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」を設置 （学校運営協議会に関する専門委員会 学校評価部会を組織改正）
平成21年 6月	「京都市学校評価ガイドライン」の策定（第3版）

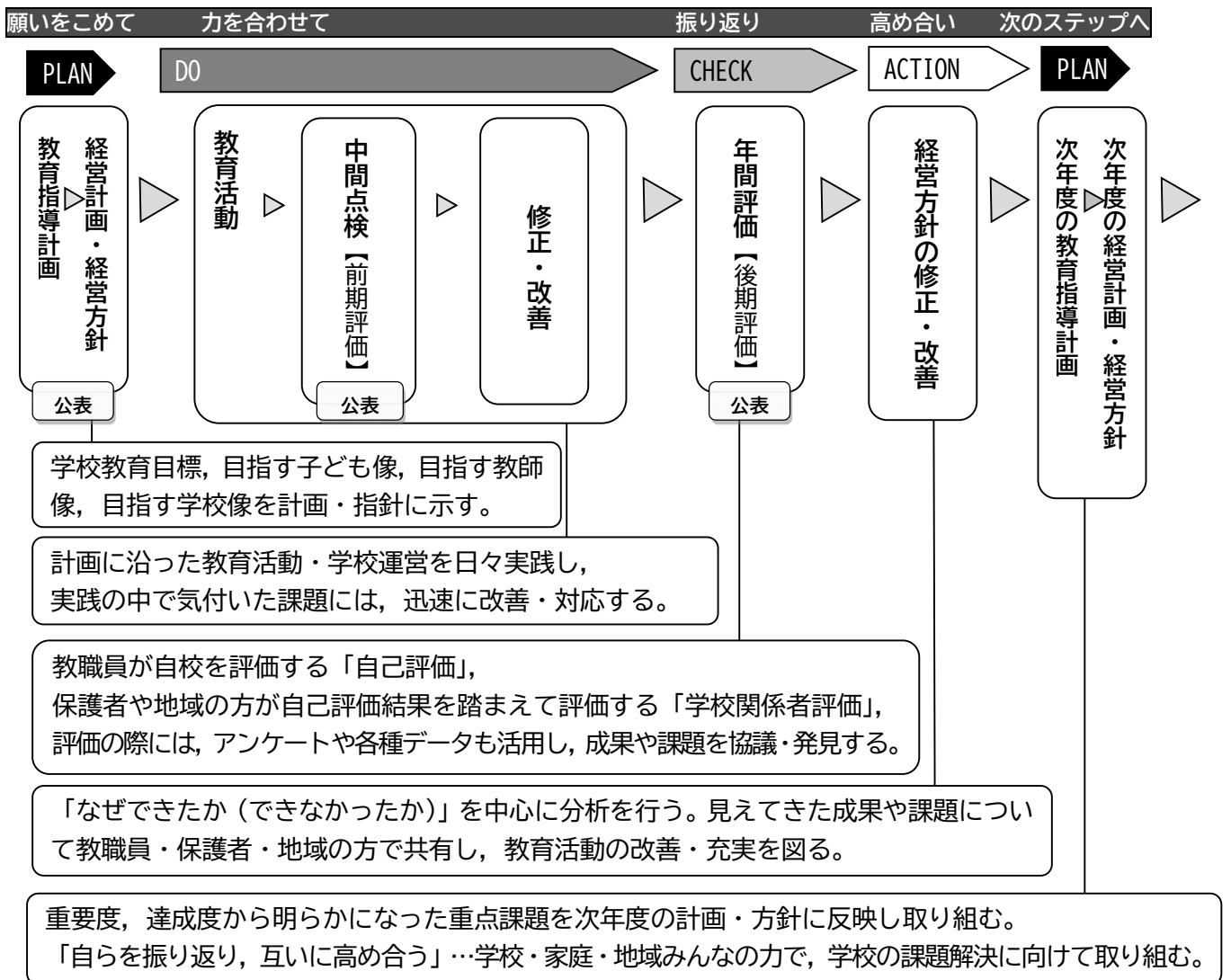
参考1－2

「自己評価と学校関係者評価、第三者評価のイメージ図」



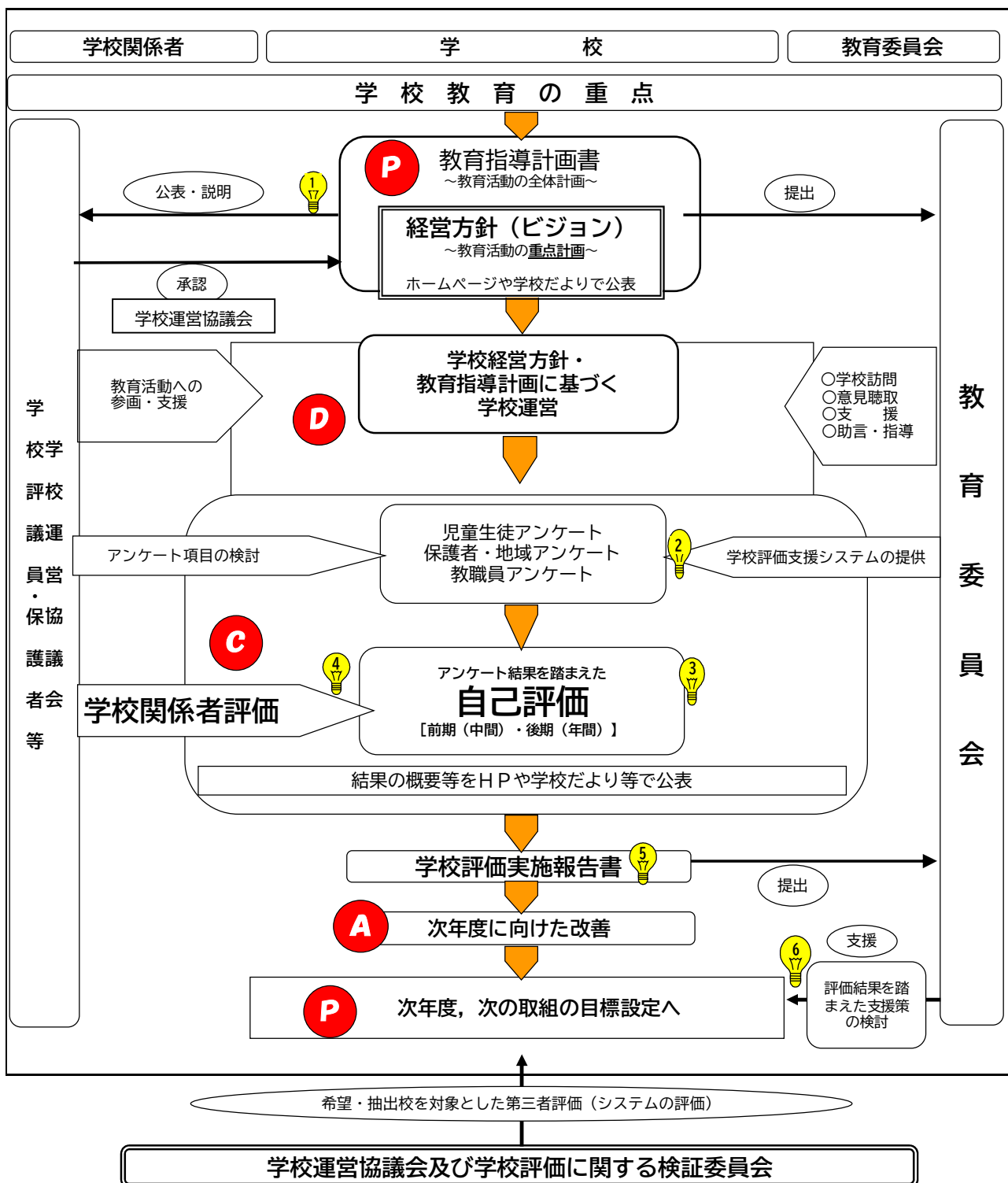
参考1－3

「PDCAサイクルに基づく学校評価の流れ」



学校評価の推進と学校運営の改善

学校は、自己評価を基本とし、学校関係者評価を活用して、組織的・継続的に改善を図っています。



ポイント

- 1 学校経営方針，学校評価年間計画，評価項目の策定，公表
- 2 学校の魅力・課題の発見に繋がるアンケート手法の活用（推奨）
- 3 学校組織としての自己評価を充実させ，評価結果及び改善策を提示
- 4 自己評価結果に対する学校関係者評価の実施と，課題解決に向けた改善策や支援策の協議
- 5 評価結果の教育委員会への報告（年間2回）
- 6 教育委員会は学校に対する様々な支援の情報として評価結果を活用

※「京都市学校評価ガイドライン（第3版）」より

2 学校評価の現状や課題等

令和3年6月に本市が学校・園を対象に行った各校での実施状況に関するアンケート調査を踏まえつつ、本市における学校評価の現状や課題等について、以下のとおり概説する。

なお、[参考2-1](#)～[参考2-4](#)は、同調査の各質問項目に該当する旨の回答を行った、小・中学校（義務教育学校を含む）の割合を示したものである。

(1) 公表方法や内容について

評価結果については、全校がホームページに掲載するとともに、学校だより等でのお知らせや学校運営協議会等の場で直接説明する機会を設けるなど、学校の実態を踏まえながら複数の方法を活用している。一方で、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、保護者へ直接説明する機会が減少した。今後は、ICT機器も活用し、更なる情報発信を進めていく。

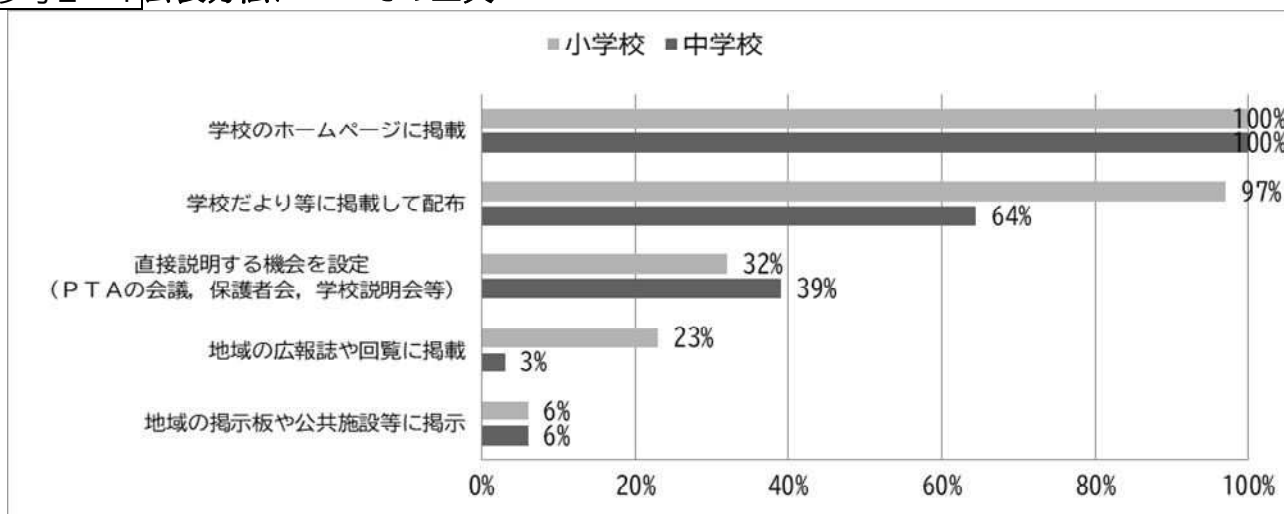
[参考2-1](#)参照。

また、公表内容についても、児童生徒・保護者を対象としたアンケートの回答状況の羅列だけでなく、回答者の属性間での比較や、学校での実際の子どもの様子と関連付けた考察などの分析面、イラストやグラフ化など視覚に訴える表現面で、わかりやすいものとなるよう工夫が施されている。[参考2-2](#)参照。

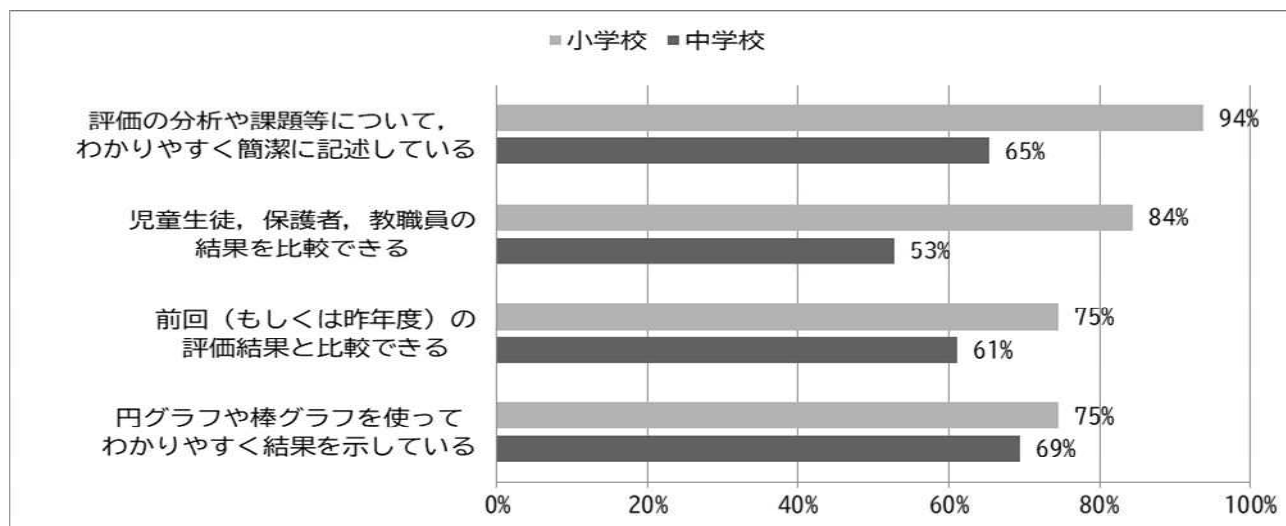
なお、こうした点について、過去数年の経年比較において、全体的に改善傾向にあるものの、小学校に比べて中学校では低調である。

今後、義務教育9年間を見据えた学びや育ちの充実に向け、中学校ブロック内の小・中学校間での学校評価の活用や発信の工夫についても、校種を越えた効果的な取組の共有や、第三者評価等で協議を深めることによって、更なる改善を図っていく。

[参考2-1](#) 公表方法についての工夫



[参考2-2](#) 公表内容についての工夫



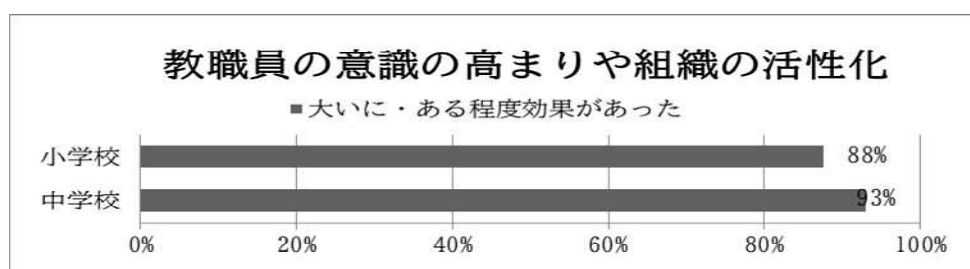
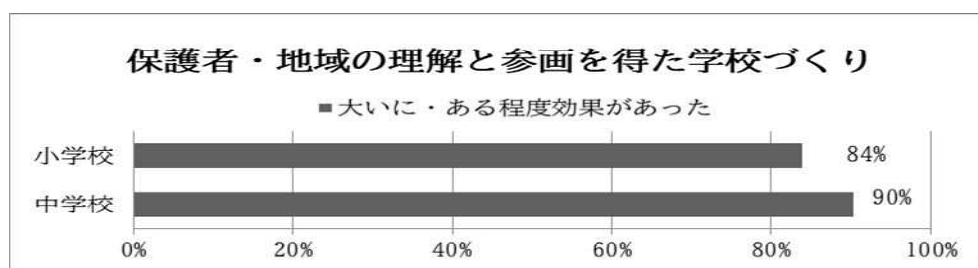
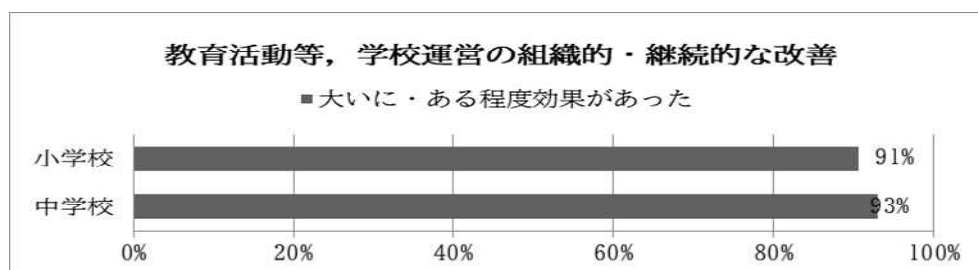
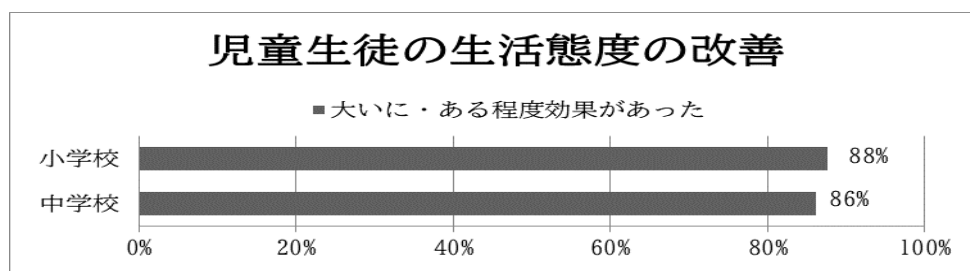
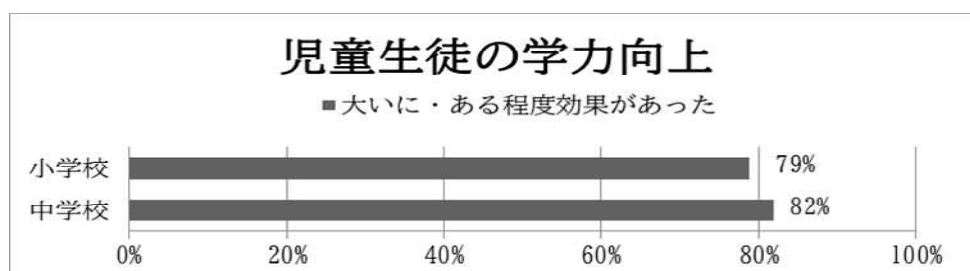
(2) 学校評価の活用による効果について

児童生徒の学力向上や生活態度の改善，教職員の意識の向上・深化や組織の活性化，学校運営の組織的・継続的な改善，保護者・地域の理解と参画を得た学校づくりの各観点において，学校評価の活用で効果が得られたとの回答が多く示されている。[参考2-3](#)参照。

例えば，P9に本市の実践事例として掲載する安朱小学校では，目指す子ども像として「進んで学び，考えを深める子」を掲げ，その実現に向けた方策としてSDGs・ESD（持続可能な開発のための教育）に関連した社会とのつながりを大切にする活動とともに，朝の帯時間の活用や家庭との連携による読書の習慣化等の取組が推進される等，学校評価を通じた実態把握と更なる取組の改善によって，進んで学び，考えを深められる児童が育まれている。

このように学校評価を通じて明らかとなった成果や課題を，教職員間にとどめることなく，学校運営協議会や学校評議員をはじめとした家庭・地域等との情報共有を図り，学校評価を基軸としたPDCAサイクルの中で，市民ぐるみ，地域ぐるみの魅力ある学校づくりが進められている。

参考2-3 学校評価の効果について



(3) 学校評価を通じた教育活動の改善に向けた課題について参考2-4参照

ア 評価実施に伴う業務負担の軽減

アンケート結果の集計や分析といった学校評価の実施に伴う事務作業への負担感が課題として示されている。

本市ではアンケートの作成・集計・分析・データ管理を一つのシステムメニューに統合し、分析結果を平易にグラフ化できる独自のシステム「学校評価支援システム」を平成26年度に導入し、以降も、システムの改修や必要な機器の更新等、学校・教職員の負担軽減に努めてきた。現在、小・中学校（義務教育学校含む）の約8割で同システムが活用されている。

今後は、国のGIGAスクール構想（すべての子どもに個別最適化され、グローバルで創造性を育む学びを実現する構想）のもとで整備された児童生徒1人1台端末や、アンケート機能を備えたソフトの積極的な活用も推奨しながら、より効率的・効果的な学校評価の実施に努めていく。

イ 学校評価の意義や目的の発信・共有

2（2）のとおり、学校評価を通じた校内外の連携・協働が進められている一方で、「学校評価の意義の教職員への浸透」や「教職員と保護者・地域の方々との意識のずれ」等が課題として示されている。

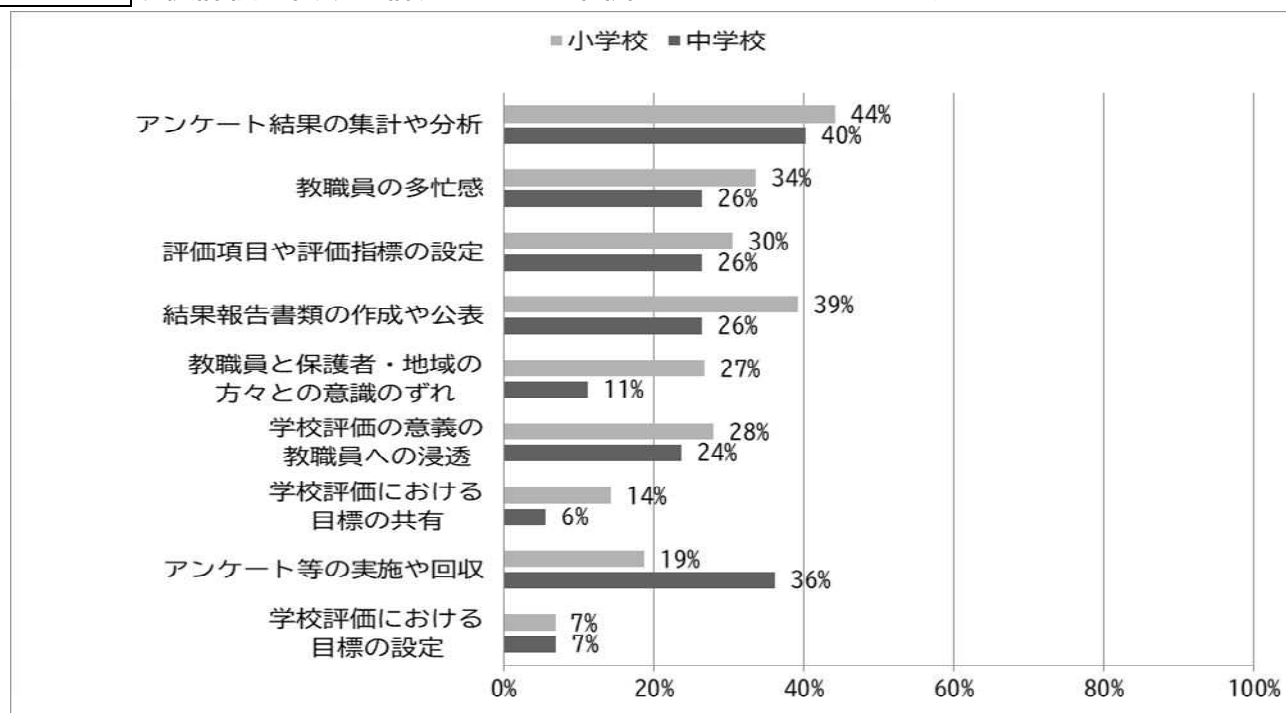
市民ぐるみ・地域ぐるみで教育を進めるうえでは、学校評価の実効性を高めながら、教職員だけでなく、学校・保護者・地域が目指すべき目標や実態を共有し、よりよい信頼関係のもとでの連携・協働が求められる。

今後は、小中一貫教育や学校間連携等の中での効果的な取組の共有をはじめ、学校管理職や学校運営協議会の委員等を対象とした研修会等の機会を捉え、学校評価の意義や目的について、評価の当事者である学校・保護者・地域の理解を深めるなど、学校評価の質の向上に努めていく。

ウ 新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた教育活動の検証

令和2年度の「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって学校教育が直面した諸課題とその克服に向けた創意工夫等の検証を進め、学校運営協議会や学校評価を含めた新たな教育活動のあり方を示していく必要性が提起された。令和3年度の同委員会では、こうした観点を踏まえた取組の検証を図っていく。

参考2-4 学校評価に関する課題あるいは困難だったと感じられる点



3 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」による第三者評価

(1) 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」の概要

本市では、学校評価の各学校での実施状況を含め、学校教育活動の充実に資する学校評価システムの客観性・信頼性を第三者的な視点から検証するために、学識経験者等で構成される「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」（以下、「検証委員会」という。）を設置している。

なお、検証委員会は、「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」第11条第2項に規定する調査・審議のための委員会としての機能も果たす、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づく附属機関である。

【令和2年度検証委員会委員】敬称略・役職等は令和2年度のもの

◎小松 郁夫	京都大学 特任教授
○天笠 茂	千葉大学 特任教授
今野 圭子	公募委員
内田 恵美子	P T A代表（京都市小学校P T A連絡協議会副会長）
宿野 秀晴	公募委員
笠沙 知章	京都教育大学連合教職実践研究科 教授
西川 信廣	京都産業大学 教授
平林 幸子	京都中央信用金庫 相談役
村田 真由子	公募委員

※ ◎は委員長，○は副委員長。委員長・副委員長を除き，五十音順に記載。

(2) 令和2年度 検証委員会の実施状況

令和2年10月7日（水），12月7日（月）に会議を開催。また，各学校における学校評価の実施に関する第三者評価として，安朱小学校，太秦中学校の2校を訪問。

<委員の主な発言>

社会の変化に伴う諸課題への対応

- 学校では，新型コロナウイルス感染症拡大を契機とした課題が顕在化している。コロナ禍における変化を的確にとらえながら，なすべきことを着実に実施していく姿勢のもと，社会の急速なデジタル化を背景とした課題の解決を図るとともに，デジタルとアナログのハイブリッドによる子どもの学びと教職員の働き方の変革についても効率的かつ大胆に実行していくことが一層求められる。
- コロナ禍における予期せぬ対応を教訓とし，そうした対応の記録をもとに取組の検証を進めながら，社会の中で学校が果たしていくべき役割について議論を深める必要がある。
- 訪問校では，コロナ禍での教員の負担軽減を図るため，デジタル技術の活用など業務の効率化に努められており，学校評価や学校運営協議会が，こうした創意工夫のもとでの課題解決や新たな学校づくりに寄与するものとなるよう，議論を深めていかなければならない。
- G I G Aスクール構想のもと，1人1台端末の整備等，ICT環境の急速な整備が進められていることは大きなメリットである。子どもたちの学びの保障に向けては，ハード面だけではなく，プログラミング教育等の新しい学習指導要領※を踏まえたソフト面の充実への投資とともに，校種を越えた連携や地域との連携を一層進めることが必要である。また，子どもは大人が予期しない行動をとることがあるため，車の両輪として，情報モラル徹底のための取組を推進していくことも求められる。

※ 平成29年3月31日に告示・公示。幼稚園では教育要領として平成30年度，小学校では令和2年度，中学校では令和3年度，高等学校では令和4年度の入学生から年次進行にて実施予定。総合支援学校は，小学校・中学校・高等学校とあわせて実施。

学校教育の充実に向けて（学校評価及び学校運営協議会の役割を含む）

- 地域に学校があることへの根源的な問いにもっと向き合わなければならない。子どもの思いや教職員の思い、保護者・地域の思い、様々な思いの接点としての役割を学校運営協議会がしっかりと果たさなければならない。
- コロナ禍では、子どもの実態を教職員や保護者・地域が共有し、歩調を合わせていくことが大切であり、学校運営協議会や学校評価が果たすべき役割は大きくなる。
- カリキュラム・マネジメントについては、その手法だけでなく、地域や社会情勢を踏まえた学校教育のグランドデザインを描き、その実現に向けて意義づけされた教育実践を構造的にとらえ、体系的に整理することが重要である。したがって、そのあり様は画一的でなく、学校ごとの事情に応じて多様であるべきであり、学校評価や学校運営協議会とも関連させることで、校内外の協働につなげることができる。
- 訪問校では、研究主任のリーダーシップが発揮され、カリキュラム・マネジメントの具体化が進められていた。こうしたミドルリーダーに対するアイデアの提供や動機付けなど、学校内外の関係者によるサポート体制の充実を図るための仕組みについては今後の検討課題である。
- 学校運営協議会の活動について、子どもの発達段階等を踏まえた校種の独自性を踏まえつつ、小中一貫教育の観点から、その共通点を明らかにする中で、全国のモデルとなる姿を見出し、京都から全国へ発信してほしい。
- 訪問校では、社会に開かれた学校を志向する校長のリーダーシップが、学校だけでなく地域へも波及し、さらなる連携・協働が生み出され、子どもの豊かな学びにつながっていた。今後は、教職員体制が変わっても持続可能であり、かつ、小中一貫をはじめとした子どもの発達に応じた系統的な取組へと発展させる必要がある。
- 京都には学区ごとに多様な生活文化が息づいている。そして、地域貢献を大切にしてきた京都企業の存在もある。その強みを大切にしつつ、いかに重なり合う部分を見出し、高め合う関係を築くことができるか。その中で、義務教育期間を通じて子どもを育むために、各々ができることを考えていくことが大切である。
- 学校運営協議会を中学校ブロック全体のものとして一体的に機能させるには、ブロック全体で目指す子ども像を掲げ、その実現に向け、義務教育9年間を見通して学校と地域が共に子ども育んでいくことを共通して強く認識することが必要である。
- 若い世代をはじめ多様な方々の参画による学校運営協議会の活性化や、地域とPTAをつなぎ、円滑なコミュニケーションを図るための仕組みづくりなどを通じて、子どもを地域と共に育む京都ならではの教育を前に進めていかなければならない。

<参 考>

京都市立安朱小学校における実践事例

- 所在地 京都市山科区安朱山川町17
- 児童数 209名（令和2年5月1日現在）
- 沿 革
 - ・ 1968年（昭和43年） 京都市立山階小学校安朱分校として開校
 - ・ 1969年（昭和44年） 京都市立安朱小学校として独立
- 中学校ブロック
安祥寺中学校，山階小学校，西野小学校，安朱小学校

※ 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」が学校訪問等により実施した第三者評価としての指導助言の内容を含め掲載。

学校教育目標

自ら学び 心豊かに 未来を創造する子

4 賢い思いを
みんなに



めざす子ども像 Smile

～笑顔あふれる 安朱の子～

17 パートナリシップで
目標を達成しよう



進んで学び、
考えを深める子

Spiral-up さらに上を！

- ・めあてをもち意欲的に取り組む子
- ・課題解決に向かう子
- ・自分の考えをもち、表現できる子
- ・学びを社会・未来とつなげる子
- ・自分の学びの変容を自覚する子

認め合い、
ともに高まり合う子

Share 集団で！

- ・進んであいさつする子
- ・自分や他者を大切にする子
- ・多様性を認め、様々な考えの人と協力できる子
- ・約束や時間を守る子

粘り強く、
最後までがんばる子

・明るく元気な子 **Shine** しなやかに！

- ・くじけずしなやかに、自分の夢に向かって努力を惜しまない子
- ・安全や健康に気をつける子
- ・感謝の気持ちをもって素直に行動できる子

誰一人取り残さない (Leave no one behind)

【子どもの笑顔】「分かる喜び(学び)」があり、「自己肯定感」「自己有用感」(豊かなかかわり)があり、夢に向かって挑戦しながら「自己実現」が図れる教育環境

【保護者の笑顔】安心して子どもを送り出し、ともに子どもの学校生活を支えようとする信頼と期待のある学校経営

【地域の笑顔】地域に開かれた学校、地域に学ぶ学校として、地域の方々に愛される学校

【教職員の笑顔】一人一人が充実感をもち日々の実践を進め、高まり合える協働体制

Self-esteem

アクションプラン

安朱学校運営協
議会

安朱自治連合会

放課後学び
児童館

安祥寺中ブロック
連携

山科区役所連携

大学・高校連携

《確かな学力の育成》…国語科 ESD・SDGsの取組

○わかる楽しさ、学ぶ喜びの実感できる授業構築 つなげる

- ・めあてとまとめ・振り返りの徹底
- ・言語活動の充実
- ・探究型の学習展開(情報活用能力)・効果的な学び合い
- ・ノート指導の徹底→家庭学習につなげる

○基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用…帯時間の確保

○読書週間の定着と図書館活用の推進 ○理数教育の充実

○家庭学習の充実 ○思考・判断する場の工夫 ○ICT活用

《健やかな体の育成》

自分の体や心を知り、

元気に過ごせる子

○望ましい生活習慣の確立

・薬物乱用防止など

○安全指導・食に関する指導

○防災教育・防災管理の充実

《豊かな心の育成》…自己肯定感・自己有用感を育てる Self-esteem

○主体的協働的に考える道徳

○感性の醸成(ふれあいクラブ・伝統文化の取組・造形など)

○なかまの日の取組の充実

○規範意識の育成

地域を知り、地域とともに歩みを進めることで学校力向上へつなげる

《地域社会参画能力の育成》…地域を愛し、地域とともに歩む…SDGsマップ作り等

○地域を見つめる総合的な学習の時間の充実・発展

1 学校評価のねらい

- (1) 学校教育目標を目指して教職員の意識のベクトルを揃え、「チーム安朱」として教職員が一体となって学校教育を推進していく機会とする。
- (2) 目指す子ども像の実現に向け、児童の実態を鑑みながら、育みたい資質・能力に届く豊かな教育活動へと改善する機会とする。
- (3) 学校・家庭・地域が学校教育目標を共有しつつ、諸活動に対する評価や結果の公表を通じて、学校教育を俯瞰的に捉え、共に手を取り合って子どもの育成に責任をもつ意識を高める機会とする。

2 評価にあたって重視する視点

(1)～(3)は、京都市学校教育の年度ごとの指針とその重点取組を定める「学校教育の重点」において、生きる力を構成する要素として掲げられている（京都市立学校・幼稚園共通の視点）。

(1)「確かな学力」の育成

育てたい態度や能力を明確化し、生きて働く力「自ら学ぶ力」「自ら律する力」を育成する。

(2)「豊かな心」の育成

人権意識を高め、多様性を認め合い、豊かな人間関係と規範意識を育む。

(3)「健やかな体」の育成

命を守る視点から「健康な心と体を自ら求める子ども」を育てる。

(4)学校独自の取組

エコ学区※1として活動する地域と共にE S D（持続可能な開発のための教育）※2の取組をさらに発展させ、地域に開かれた学校づくりを進める。

※1 環境にやさしいライフスタイルへの転換や省エネ、地域力の向上を目指し、地域ぐるみでエコ活動に取り組んでいる学区を京都市が「エコ学区」として活動を支援している。

※2 S D G sにおいて教育は目標4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を保証し、生涯学習の機会を促進する」に掲げられ、ターゲット4.7にE S Dの内容が記載されている。

(5)教職員の働き方改革

教職員一人一人が勤務時間を意識し、子どもと向き合う時間を十分に確保する。

3 評価項目の設定にあたっての留意点

- (1) 学校評価を通じ、学校教育目標の達成に向けた教育活動と学校運営の改善が図られるよう、目指す子ども像の具体的な3つの姿「spiral-up」「Share」「Shine」に照らして詳細項目を定め、整理し、子どもの姿や変容を捉えるものとしている。
- (2) 安朱小学校における積年の課題である「自己肯定感」、「粘り強さ」に関係する項目や、同校の特色であり教育活動の軸であるE S Dを踏まえた項目（環境に対する意識の変容等）については、中長期的視点からの経年変化を捉えるべきものと考えている。
- (3) 地域ぐるみの教育を進めるため、教職員をはじめ学校運営協議会での協議も経て設定している。

4 評価結果の概要 ※3に掲げる重視する視点に沿って概要を記載

	自己評価	学校関係者評価
「確かな学力」の育成	- 年度当初に、学力向上を担当する校内組織が中心となって、確かな学力を育むための取組の提案と具体的なチェックリストを掲げることで、子どもたちにつけたい力を学校全体で共通理解し、教職員のベクトルを揃えながら、子どもの学習意欲が高まる取組を推進することができた。 「めあて」を明確にした上で、思考ツール（思考の支援や可視化等を図る手段）を活用しながら、対話を通じて自己を表現する「パワーアップタイム」に取り組むことで、自らの考えを深めている。	- 学習環境がしっかり整えられている。 - 学校では、子どもたちの個性を大切にされている。子どもは、他者からかけられる一言で自信をもつことがある。親や地域等いろんな人に認めてもらい、褒めてもらえる機会をもつことが大切である。
「豊かな心」の育成	- 自己有用感や自尊感情を高めていくことが課題である。心と身体のアナログ等も踏まえながら子どもの状況や学級の実態を把握しつつ、生徒指導3機能（自己決定の場を与える・自己存在感を与える・共感的な人間関係を育成する）についての研修等を重ね、多面的に自己理解を深める丁寧な学級経営を心がけてきた。 「なかまの日」や人権講演会等を通じて、仲間づくりや多様性を認める土壌づくりに取り組み、一人一人を大切にすることを育んでいる。	学校に来られない子どもに対して何ができるのか。自分が認められていないと感じていることも原因になっているように思うので、地域も学校と連携し、共にしっかりと見守っていくことが大切である。
「健やかな体」の育成	- 新型コロナウイルス感染防止については、必要な対策やその理由を含め、ほけん便りや保健指導を通じて、常に情報発信した。また、今年度から新たな児童会活動として発足した「健康委員会」でも、新型コロナウイルス感染症対策も含めた手洗いの推進活動等、児童会目標「元気」に向けて、楽しく取り組めるような提案を行った。 「薬物乱用防止教室」は、山科警察署から来校されたサポーターによる講話と、京都薬科大学との連携による実験等とを組み合わせることで、子どもたちにとってより理解しやすいものとなった。	- 大変な時期ではあるが、子どもたちが自分の身体について考え、行動していくことがこれからも大事になる。部活動やクラブ活動の意義は大きい。 - 朝の様子で子どもたちの体調がわかる。1年生は大きな声であいさつをしてきて嬉しい。高学年になると照れもあるかと思うので、こちらからもあいさつをしっかりとすることなどを心がけていきたい。

学校独自の取組	・ 安朱コンソーシアム※₁が定着し、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いながらも、地域の高校・大学等との連携を進められたことは、豊かで持続可能な教育活動の推進につながるものとする。 ・ 年間を通しての SDGs や ESD の理念を踏まえた学習は、学校での学びと社会とのつながりを考える有効な学習となった。また、専門家や地域の方のアドバイスをもらうことにより、学習をより深めることができた。	・ 地域とつながった学習環境が整えられている。コロナ禍による制約がある中、様々な工夫を行いながら安朱コンソーシアムを機能させたところはすごいと思う。 ・ 見守り隊※₂は、子どもたちのことを思って活動してくれているが、今後の担い手をどのように確保するかが課題。
教職員の働き方改革	・ 校務支援員※₃の配置をはじめ、一部教科担任制の導入やチームティーチング授業などの指導体制の工夫により、学級担任の負担軽減と教育の充実を図った。 ・ 事前の議案提示等を通じた会議の短縮化に加え、校務支援システムや総合教材ポータルサイトなど ICT 活用等によって校務の効率化を図った。 ・ 電話対応終了時刻の設定（原則 19 時）も定着してきており、終了時刻を超えた電話対応はほぼない状態である。	・ 校務支援員の配置やチームティーチングの活用、行事等の精選をしていくことで、教職員に時間のゆとりができ、子どもに向き合う時間が増えていくことが望ましい。 ・ 教育活動を地域が支援していくことで、教職員がより子どもに向き合うことができるようになる。これからも協力していきたい。

- ※1 「安朱コンソーシアム」：地域の子ども、若者、大人の交流促進を図り、安朱の自然や歴史、風習を次世代に伝え、継承していく仕組み。地域の大学、高校、中学校、各種施設・団体との連携・協働で新たな学びの場を創造し、「夢をもって自分の未来を切り拓く子ども」の成長の手助けを、地域と学校が共汗して取り組む社会を目指す。詳細は P16 に掲載。
- ※2 「見守り隊」：地域等の方々に、通学路などで、登下校中の子どもたちの安全確保のための活動を日々展開していた。
- ※3 「校務支援員」：教員の補助業務や電話対応・消毒などの校務の一部を受け持つ職員（教員免許不要）

5 新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえ工夫した内容（学校評価の実施に際して）

- （1）紙面だけでなく、学校ホームページやオンライン会議システムを活用することによって、学校教育活動が少しでも保護者や地域に伝わるように努めた。
- （2）取組を検討するにあたっては、管理職だけ（学校側）、役員だけ（学校運営協議会）など一部の者のみが取組の目的や内容を把握しているような状況を回避し、「みんなごと」として取組を進めるため、各教職員の思いや学校での取組をビデオメッセージにして学校運営協議会で共有し、学校運営協議会からは新たにおたよりを通じて取組を発信するなど、共通理解を図るための工夫を行った。

6 総括・令和3年度に向けた課題等

- (1) 校務支援員との効果的な業務分担，一層のICTの活用，行事の精選等を進めつつ，地域等のご協力をいただくことで，教職員がゆとりをもってしっかりと子どもに向き合う環境を整えていく。
- (2) 取組を進めるにあたっては，継続することの良さも大切にしつつ，年度ごとに「子どもにどんな力をつけていくのか」を明確にし，その実現に資する手段として適切かどうか確認することが必要だと考える。取組の記録等をより具体的に整理し，継続的な検証のもとで進められるものとしていきたい。
- (3) 総合的な学習の時間のカリキュラムは教員側でカリキュラムをしっかり構築しているが，児童の発想を柔軟に取り入れることで，よりよい学習展開ができている。それができる安朱小学校の文化をこれからも大切にしていきたい
- (4) 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点を踏まえ，安朱小学校ならではの学年を越えた取組等の実施に難しさがあるが，創意工夫をしながら「児童同士のつながり」「地域とのつながり」を大切にしたい取組をさらに充実させていきたい。

<参考> 中学校ブロックにおける義務教育9年間の教育目標と目指す子ども像

以下の内容については，定期的な協議や授業による交流，参観，研究協議等を通じて，ブロック内の小学校，中学校で共有・連携しながら，9年間を見通した小中一貫教育を進めている。

9年間の教育目標

次代をたくましく生き抜く力を育てる

目指す子ども像

- ・しっかりとあいさつのできる子ども
- ・意欲的に取り組み，やり切る子ども
- ・自ら学ぶ子ども
- ・自分，人，モノを大切にする子ども
- ・健康，安全に気をつける子ども

検証委員会による学校訪問（第三者評価）を踏まえた改善状況

1 既に改善に着手した点

検証委員会委員の評価	改善に向けた取組状況
授業において、子どもの発言において「たぶん」や「間違っているかもしれないけど」といった前置きをしており、頻繁に予防線をはっている姿が見られた。こうした子どもの姿が、「折れやすい子どもが多い」という評価に表れているのではないかな。	令和2年度後期の学校評価でも同様の傾向が見られたため、学級や学年単位、研究部や生徒指導部、健康教育部の校務分掌単位で実態を振り返り、「～です。」や「～だと思えます。」など、自信をもって文末まで言い切ることを定着させる取組を進めることとした。
多様な学校教育活動を表現する掲示物で校内が彩られ、創造性が掻き立てられる素晴らしい学びの環境である。ただし、子どもが受け止められないほどの情報過多にならないよう留意する必要がある。	研究部で掲示のあり方を再検討した。まず、学年の掲示板と情報発信の掲示板とで目的別に整理し、さらに後者の掲示板についてはカテゴリごとのわかりやすいものになるよう工夫した。
小学校では、令和2年度から、新しい学習指導要領を踏まえたプログラミング教育が展開されることとなった。子どもたちのプログラミング的思考を育むための先生方の資質向上に向けた取組が求められる。	GIGAスクール構想のもとで1人1台端末の環境が整い、1年生から6年生まで児童全員が自分のID・パスワードでログインし、学習に活用する場面も増えてきた。教員の資質向上については、6年生の理科の授業で行うプログラミング教育を教員が相互に見学する機会を確保し、自分が授業者となった場合もスムーズに実践できることを想定した仕組みをつくった。
学校と地域が密接に連携・協働した中での教育活動は、京都ならではの特色である。ただ、京都市外から校区内に転居された方にとっては、やや敷居の高さを感じるようになるかもしれない。こうしたことを念頭に、地域企業の参画を含め、連携・協働のあり方を改善できれば新たな関係性が生まれるかもしれない。	「安朱子どもコンソーシアム」が生まれて（2018年）以降も、取組は変容し続けている。今後も「持続可能」な取組にしていくために、カリキュラム・マネジメントを通じて学校教育活動とうまく融合させ、より豊かな取組となるよう努めている。

2 今後の着手を予定している点

検証委員会の評価	取組の方向性
令和2年度の前期学校評価に伴う児童対象のアンケートには、昨年度まであった「あなたは地域の行事に参加していますか」との問いがなくなっている。アンケートは学校が大切にしたいことを示すメッセージでもあり、保護者にとっては気づきを得るための貴重な機会である。コロナ禍で子どもがほぼ外出していない状況を踏まえた判断だと思うが、勿体ない。地域とのつながりを問うのであれば、行事への参加に限定しなくてもよいのではないかな。	令和3年度学校評価に伴うアンケートでは、実際の行事への参加だけでなく、地域に参加する意義につながる問いを設けたい。
中学校ブロック（1中学校・3小学校）としての特色ある取組を教えてほしい。	令和2年度はコロナ禍の影響を鑑み、研究主任・教務主任・生徒指導主任の担当間交流にとどまった。オンラインも活用しながら、中学校ブロック全体でどのような子どもを育てていくのか共通理解を図りつつ、義務教育9年間を見通した具体的な取組に落とし込むための意見交換等の機会をつくる。

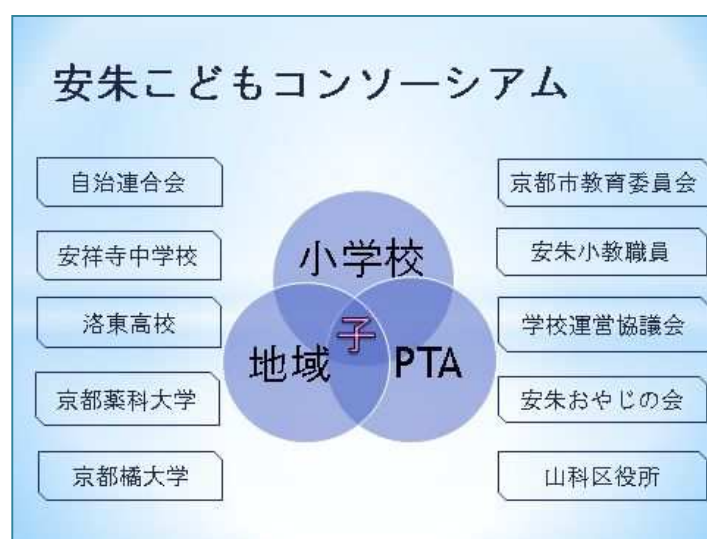
安朱子どもコンソーシアム

目標

地域を知り、地域の歴史や自然を掘り起こし、次の10年につなげる。

具体的な取組

1. 地域学習，体験活動，地域の人材の活用，PTA 活動，学校と地域とのコラボレーション事業等を通して，幅広い豊かな教育活動を展開。
2. 小中連携の推進，児童館や放課後まなび教室との連携等により，地域ぐるみで子どもを育てる取組。
3. 安朱子どもみまもり隊への感謝と連携。
4. 地域コミュニティとしての安朱小学校の役割。
5. クラブ活動における地域の専門分野の指導者の参加。
6. 花時計を核とした中庭整備委員会との連携。
7. 小・高連携では，外国語活動を通して洛東高校との連携。
8. 小・大連携では，薬物乱用防止教育を通して，京都薬科大学と連携。
心肺蘇生・AED 教育を京都橘大学と連携。
E S D 学習を S D G s の観点から京都大学と連携。
防災教育の観点から京都大学と連携。
9. 「地域交流作品交流会」を開催し，地域の幼稚園・保育園，中学校，高等学校，大学，すこやかクラブ等とのつながり。



学校評価のねらい

- ① すべての教職員が、学校評価は教育課程を通じて学校教育目標の実現を図るというカリキュラム・マネジメントの重要な要素であるという認識をもつ。
- ② 各種調査や保護者アンケート等の指標を活用して、評価者の視点から自己評価を行い、よりよい学校、学級づくりに生かす。
- ③ 学校評価を公表することで、学校・家庭・地域が子どもの教育課題を共通理解し、協力・連携を深めながら、地域ぐるみで子どもの教育に取り組み、学校支援の輪を広げる。

中間評価

年間評価

	評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
4	教育指導計画書の作成		学校だより（教育方針の発信） 前年度の評価結果をHPに再掲 評価年間計画をHPに公表
5	学校評価の実施に向けた企画 評価項目の検討		
6		第1回会議開催 学校教育方針の説明	
7	保護者アンケート 児童アンケート (取組の振り返り・児童生徒の様子各種調査結果等)		
8	自己評価の実施 評価結果の分析	第2回会議開催 学校運営協議会による評価の実施	
9	2学期の方針の検討	(学校関係者評価)	
10			学校だより・HPに結果・改善策を公表
11			
12	保護者アンケート 児童アンケート (取組の振り返り・児童生徒の様子各種調査結果等)		
1	自己評価の実施 評価結果の分析	第3回会議開催 学校運営協議会による評価の実施（学校関係者評価）	
2	改善策の検討		
3	次年度の方針の共通理解		学校だより、HPで結果・改善策を公表

令和 2 年 10 月

保護者様

京都市立安朱小学校
校長 加村 和美

令和 2 年度 前期学校評価アンケート ～よりよい学校にするために～

集計結果

※数字は% ※上段が昨年度, 下段が今年度	1・2・3 年				4・5・6 年			
	よくできている	できている	あまりできていない	できていない	よくできている	できている	あまりできていない	できていない
1. あなたは、楽しく学校にきていますか。	71.8 67.8	20.5 21.6	5.1 2.7	2.6 8.1	68.3 51.0	21.1 36.7	9.9 8.2	0.7 4.1
2. あなたは、自分には、よいところがあると思いますか。	50.9 50.0	35.1 38.9	9.6 8.3	4.4 2.8	30.8 42.9	49.7 31.6	17.5 20.4	2.1 5.1
3. あなたは、友だちを大切にしていますか。	77.8 64.9	17.9 27.0	1.7 8.1	2.6 0.0	63.4 66.3	35.2 33.7	1.4 0.0	0.0 0.0
4. あなたは、自分から元気にあいさつをしていますか。	54.4 32.4	35.1 56.8	6.1 10.8	4.4 0.0	43.4 42.9	45.5 41.8	10.5 10.2	0.7 5.1
5. あなたは、目標をもってがんばっていますか。	65.2 48.6	25.2 28.6	9.6 20.0	0.0 2.9	49.3 60.2	36.1 26.5	13.2 9.2	1.4 4.1
6. あなたは、むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。	61.8 43.2	29.1 43.2	7.3 10.8	1.8 2.7	36.8 36.7	41.0 41.8	15.3 19.4	6.9 2.0
7. あなたは、学校の先生・教職員、目上の人や友だちにも、正しい言葉づかいで話していますか。	67.0 51.4	27.0 40.5	2.6 5.4	3.5 2.7	34.0 49.0	52.1 42.9	12.5 6.1	1.4 2.0
8. あなたは、自分の思いや考えをしっかりとっていますか。	50.0 50.0	36.4 19.4	10.2 25.0	3.4 5.6	57.6 38.8	25.0 37.8	17.4 19.4	0.0 4.1
9. あなたは、授業の中で、友だちの意見を最後まで聞くことができますか。	75.7 63.9	21.7 27.8	1.7 5.6	0.9 2.8	57.7 60.2	38.7 35.7	3.5 2.0	0.0 2.0
10. あなたは、進んで学習していますか。	64.1 54.1	27.4 29.7	7.7 16.2	0.9 0.0	36.8 44.9	43.1 43.9	18.1 10.2	2.1 1.0
11. あなたは、家で読書をしていますか。	62.1 57.1	21.6 17.1	9.5 11.4	6.9 14.3	44.7 42.3	34.8 35.1	15.6 19.6	5.0 3.1
12. あなたは、新しい生活の中で学校や家のきまりを守っていますか。	64.3 52.8	30.4 33.3	5.2 13.9	0.0 0.0	43.7 56.7	47.9 38.1	8.5 4.1	0.0 1.0
13. あなたは、家でも、環境にやさしい生活をしていますか。	63.8 55.6	26.7 30.6	8.6 11.1	0.9 2.8	46.0 45.4	42.4 39.2	8.6 11.3	2.9 4.1
14. あなたは、「早寝」「早起き」「朝ごはん」など、規則正しい生活をしていますか。	53.0 52.8	34.2 25.0	6.8 19.4	6.0 2.8	35.9 36.7	28.2 37.8	24.6 15.3	11.3 10.2
15. 自分で考えて行動できていますか。	50.0	33.3	16.7	0.0	49.0	38.8	11.2	1.0

※ 今年度新たな項目については、前年度を斜線としています。

保護者の評価から

数字は%

	よく出来 ている	大体出来 ている	あまり出 来ていな い	出来て いない
1. 子どもは、楽しく学校に通っている。	50.5	39.9	8.6	1.0
2. 子どもは、自分のよいところを知っている。	26.3	57.1	15.7	1.0
3. 子どもは、他人を思いやり、親切にしている。	35.4	51.0	13.6	0.0
4. 子どもは、自分から元気にあいさつをしている。	27.8	46.0	24.2	2.0
5. 子どもは、目標をもってがんばっている。	34.8	38.4	24.7	2.0
6. 子どもは、むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦している。	19.2	49.0	28.3	3.5
7. 子どもは、適切な言葉遣いをしている。	15.7	56.6	25.3	2.5
8. 子どもは、自分の思いや考えをしっかりとっている。	28.8	51.5	19.2	0.5
9. 子どもは、話を最後まで聞いている。	21.2	37.9	37.4	3.5
10. 子どもは、進んで学習をしている。	25.8	41.9	28.3	4.0
11. 子どもは、家庭で読書をしている。	32.8	31.3	26.8	9.1
12. 子どもは、家のきまりや社会のルールを守って生活をしている。	35.5	53.8	8.6	2.0
13. 子どもは、環境に関心を持ち、環境にやさしい生活をしている。	21.7	50.0	26.3	2.0
14. 子どもは、「早寝」「早起き」「朝ごはん」等、規則正しい生活を身につけている。	40.4	35.9	22.7	1.0
15. 休校中を含め、学校だより・ホームページ・学級だより等で、学校の日常の様子 が保護者に伝わっている。	31.3	61.1	5.6	2.0

<自由記述欄より>

- ・入学早々に休校となったために児童同士お互いを知る機会が少ないのではと感じております。休み時間の外遊びなどで可能な範囲で機会を増やしていただけると幸いです。⇒現在、中間休み・昼休みに交互に外遊びをしています。遊びの決まりをクラスで考え、感染防止対策をしながら遊んでいます。
 - ・「毎日6時間が疲れる。」「早く友達と普通に遊びたい。」とはよく言っていますが、心配はないようです。
 - ・もっと本当は友達と外で走り回ったり、ひっついたたりして遊びたいようです。残念ですが、がまんが大事ですね。
 - ・表面的には目立って何も問題はありますが、子どももずいぶんストレスがたまってきていると思います。放課後、休み時間、部活などの運動もほぼできず、歌も大声もだめで学校で学べるべき人間関係やコミュニケーションが希薄になり、どこで発散すべきかしらずにストレスがたまっていくようで怖いです。勉強の授業数が足りなく、テストも多く不安であります。心を豊かにできる時間を学校でも取り入れて欲しいです。
- ⇒7月6日からクラブ活動、9月7日より部活動が始まりました。音楽の学習も感染防止対策をしながら楽しく学習しています。心を豊かにできる時間を取り入れていきたいと思います。

他にもご意見を頂いておりますが、紙面の都合上一部の紹介とさせていただきました。ご了承ください。

保護者様

京都市立安朱小学校
校長 加村 和美

令和2年度 前期学校評価アンケート ～よりよい学校にするために～

集計結果について

秋の声が聞こえる美しい季節が到来しました。平素は、本校教育推進のためにご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

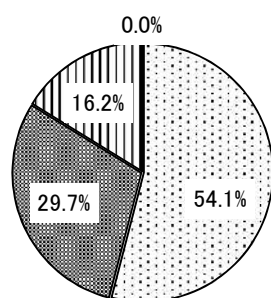
さて、本校の教育活動をより充実させるために、今年度6月からの学校生活について、児童・保護者を対象にしたアンケートを実施いたしました。結果についてまとめましたので、お知らせいたします。子どもたちの学校生活をよりよいものにするために、今後の活動に生かしていきたいと思ひます。ご協力ありがとうございました。

今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため休業があり、前期のアンケートは隔日登校や新しい生活様式で過ごす学校生活の中で行われました。昨年度と質問の内容を変更したものもあり、比較しにくい部分もあるとは思ひますが、今年度の学校教育目標「自ら学び 心豊かに 未来を創造する子」を基に、めざす子ども像にある4つの「S」(Spiral-up, Share, Shine, Self-esteem)を視点にして考察を行いました。

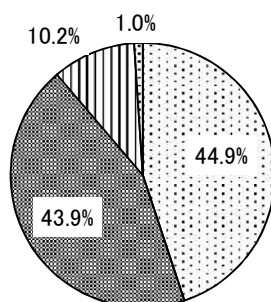
<考 察>

Spiral-up ～進んで学び、考えを深める子～

あなたは、進んで学習していますか。

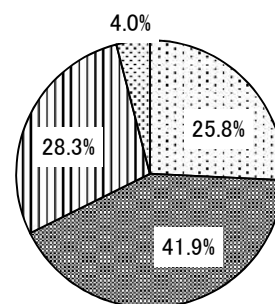


【低学年】



【高学年】

子どもは、進んで学習をしている。



【保護者】

- よく出来ている
- 大体出来ている
- あまり出来ていない
- 出来ていない

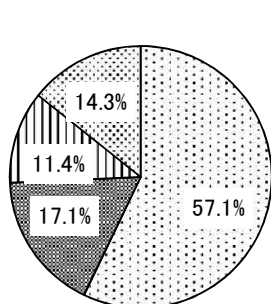
「あなたは、進んで学習をしていますか。」という問いには、「よくできている」「だいたいできている」合わせて低学年では約84%の児童が、高学年では約89%の児童が肯定的な回答をしています。「よくできている」と回答した高学年の児童の割合は、昨年度末に比べて増えています。

今年度の4・5月の休業期間は、家庭での学習となりましたが、その期間中、学習予定表で学習計画をたてることに取り組む経験をつんできています。低学年の児童はお家の方と一緒に、高学年の児童は1週間の見通しをもって計画をたてていました。目標をたて計画し、振り返りのもと翌週の目標につなげていきたいと思ひます。

本校では新学習指導要領で謳われている「主体的・対話的で深い学び」を大切に授業に取り組み、学校教育目標の目指す子ども像の中から、子どもたちに育てたい力「自分の課題を見つける力」「自分の考えをもつ力」「表現する力」「互いを認め合う力」「つなげて考える力」「よりよいものを考えていく力」をピクトグラムで見える化し、ESDの育てたい力と関連付けて取り組んでいます。また今年度は振り返りを充実させていくことにも取り組むことで、授業の中で何を学ぶのかの「めあて」と「学ん

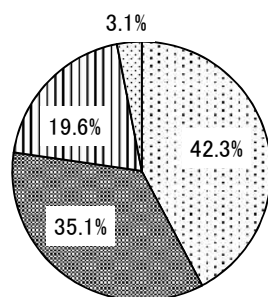
なこと」を明確にして授業の中で身につけた資質・能力を明らかにし活用できる力にしていきたいと考えています。保護者の「子どもは、進んで学習をしていますか。」という問いには、肯定的な回答が約7割という結果でした。家庭学習でも、学習のめあてをもち、自主学習などでは自分で課題の設定をするなど学習に進んで取り組んでいけるようにつなげていきたいと考えています。

あなたは、家で読書をしていますか。

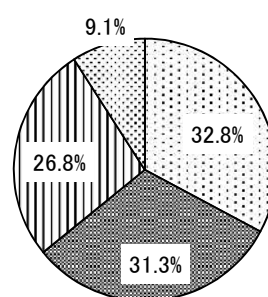


【低学年】

子どもは、家庭で読書をしている。



【高学年】



【保護者】

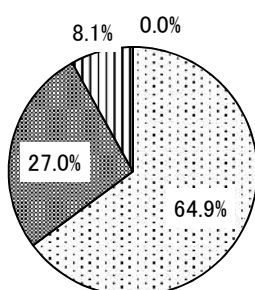
□よく出来ている
■大体出来ている
□あまり出来ていない
□出来ていない

「あなたは、家で読書をしていますか。」という問いには、「よくできている」「だいたいできている」合わせて低学年では約74%の児童が、高学年では約77%の児童が肯定的な回答をしています。昨年度よりも低くなっています。

今年度は、休業中にお家で読書をされていたご家庭もあったと思いますが、学校図書館が活用できなかったことも影響しているようです。休業後、学校では授業の中で読書への取組をしたり、委員会活動で読書週間の取組をしたりしています。昨年度、学年や委員会で取り組んだ「ビブリオバトル」が各学年に広まっている様子が見られましたが、今後も「親子で読書」や「読書デー」等で読書の魅力を伝えていく取組を進め、週末読書の定着をはかっていきたいと考えています。司書教諭のいる日は授業以外での図書館利用もできるようになっています。

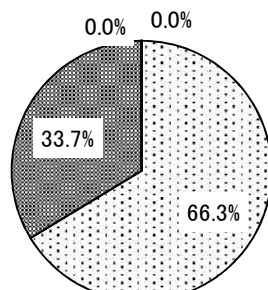
Share～認め合い、ともに高まり合う子～

あなたは、友達を大切にしていますか。

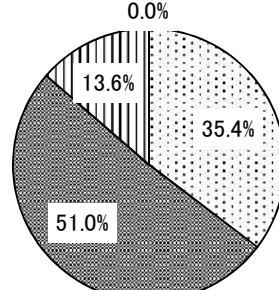


【低学年】

子どもは、他人を思いやり、親切にしている。



【高学年】



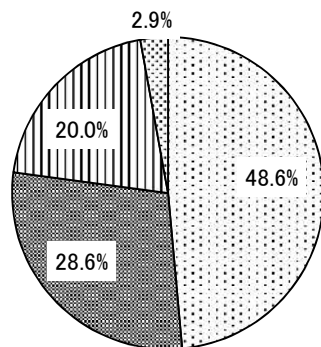
【保護者】

□よく出来ている
■大体出来ている
□あまり出来ていない
□出来ていない

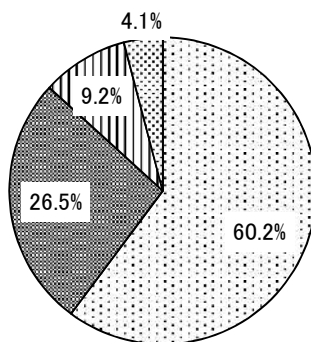
「あなたは、友だちを大切にしていますか。」という質問では、低学年では約92%の児童が、高学年では約100%の児童が肯定的な回答をしています。学校再開にあたり、学年集会で「きまりを守ることは自分の命を守ることや友達のことを守ることになる。」というお話がありました。子ども達は、相手のことを思いやることを今まで以上に行動に移してくれているのではないかと思います。

また、保護者の「子どもは、他人を思いやり、親切にしている。」という問いには、肯定的な回答が86%と全体的に高い数値となりました。ただ、低学年で、約8%の児童が「あまり出来ていない。」と回答しているので、1年間を通した取組の「なかまの日での行動目標の設定と振り返り」等を通して、これからも仲間づくりの大切さを呼びかけていきたいと考えています。また学習の中でも、友達の意見を認め、取り入れていく毎日の授業を大切にしていきたいと考えています。

あなたは、目標をもってがんばっていますか。

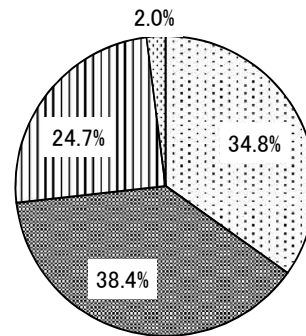


【低学年】



【高学年】

子どもは、目標をもってがんばっている。



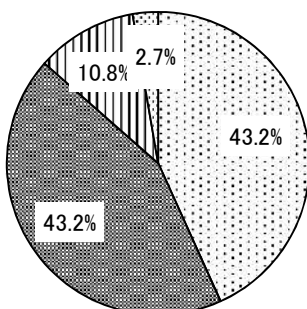
【保護者】

- ☐ よく出来ている
- ☒ 大体出来ている
- ☐ あまり出来ていない
- ☐ 出来ていない

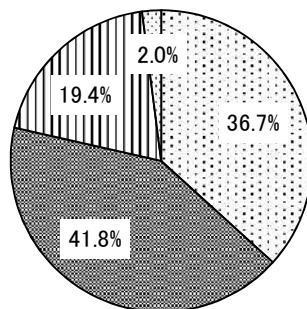
「あなたは、目標をもってがんばっていますか。」という質問では、低学年では約77%の児童が、高学年では約87%の児童が肯定的な回答をしています。低学年の児童では、「どんな目標をもてばいいかわからない。」という姿が見られるので、まずは身近な所からハードルの低い目標を立て、到達することで達成感を味わい、目標にむけて頑張ることの良さを感じられるようにしたいと考えています。

今年度から「生き方探究パスポート」（京都市版「キャリア・パスポート」）の作成が始まりました。生き方探究パスポートでは、年度初めには、「はじめ」として今の自分を振り返って、1年間の目標をたてました。今後も生き方探究パスポートに自分の目標やがんばりを記録していくことで自分の成長や良さに気付き、「なりたい自分」にむかってチャレンジしていきます。キャリア教育の視点で、スポーツフェスティバルや学習発表会などの行事にも目標をもち取り組んでいきたいと思っています。

あなたは、むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。

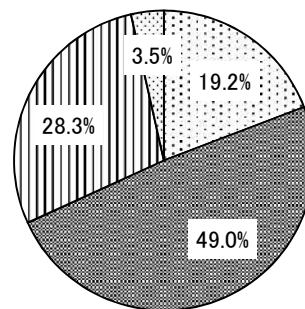


【低学年】



【高学年】

子どもは、むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦している。



【保護者】

- ☐ よく出来ている
- ☒ 大体出来ている
- ☐ あまり出来ていない
- ☐ 出来ていない

「あなたは、むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。」の質問で、低学年では、約86%の児童が、高学年では、約79%の児童が肯定的な回答をしています。高学年においては、昨年度に比べると、高学年は、ほぼ変わらない結果でしたが、低学年は減っています。

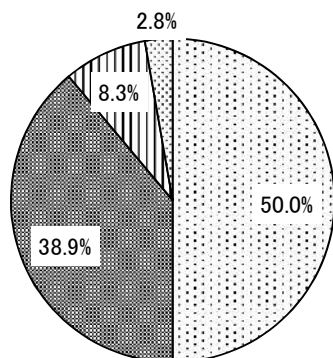
また、保護者の「子どもは、むずかしいことでも失敗をおそれないで挑戦している。」という問いには、肯定的な回答が約7割という結果でした。

今年度、活動が制限される中で「できないこと」を多く感じたかもしれませんが、その中でも、いろいろな課題解決の方法を学んだり、勇気を出してやってみたり、失敗しながらも粘り強く取り組んだりすることが大切だと考えています。「3密を避けながら遊ぶにはどうしたらいいのだろうか。」と学級活動の中で話し合ったり、児童会など高学年を中心にリモート会議で意見を出し合ったりしている姿がみられました。また今年度も、課題をもち、自分ができることを粘り強くその解決に向けて考え、行動できる力を身に付けてほしいという願いから、総合的な学習の時間等でESDの学習に取り組んでいます。

すぐに回答を求めるのではなく、自分の課題に粘り強く取り組んでいけるよう学習を進めていきます。

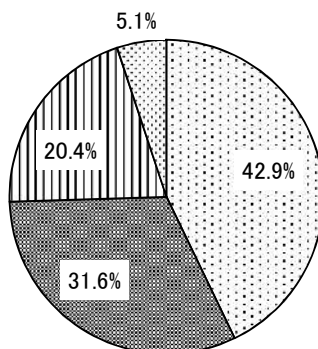
Self-esteem～自己肯定感・自己有用感について～

あなたは、自分にはよいところがあると思いますか。

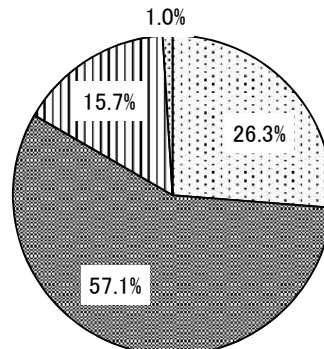


【低学年】

子どもは、自分のよいところを知っている。



【高学年】



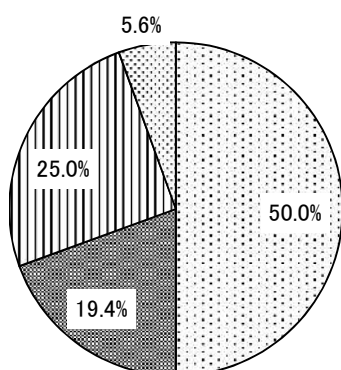
【保護者】

□よく出来ている
■大体出来ている
▨あまり出来ていない
□出来ていない

「あなたは、自分には、よいところがあると思いますか。」という質問で、低学年で9割、高学年で7割以上の児童が肯定的な評価をしています。低学年に比べると、高学年はやや低いのですが、昨年度末に比べると「よく出来ている」の割合は若干上がっています。また保護者の「子どもは、自分のよいところを知っている。」という問いには、肯定的な回答が約8割という結果でした。

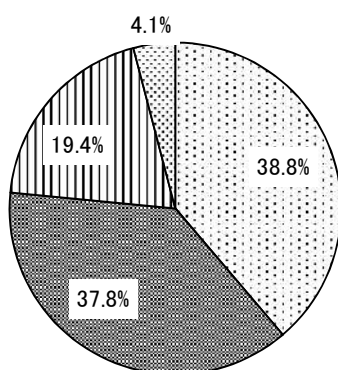
学習や生活の「見通し」をもち「振り返り」を積み重ねることで、自分の変容・成長を自覚することができます。それを基に先生と対話したり、児童同士と話し合いをしたりすることを通して、自分自身のよさ、興味・関心など多面的に自己理解を深めることにつながります。生き方探究パスポートの中に、自分の得意なこと・大切にしていることを記録していくことで、自分を見つめ、自分の良さに気づき自己肯定感・自己有用感につなげていきたいと考えています。

あなたは、自分の思いや考えをしっかりと言っていますか。

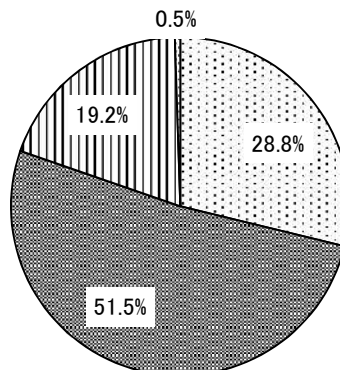


【低学年】

子どもは、自分の思いや考えをしっかりと言っている。



【高学年】



【保護者】

□よく出来ている
■大体出来ている
▨あまり出来ていない
□出来ていない

「あなたは、自分の思いや考えをしっかりと言っていますか。」という質問で、低学年で約7割、高学年で7割以上の児童が肯定的な評価をしています。また保護者の「子どもは、自分の思いや考えをしっかりと言っている。」という問いには、肯定的な回答が約8割という結果でした。

まずは自分の思いや考えをもち、それを相手に伝えることが大切です。教科を問わず、思いや考えを交流する場の設定と、受け止めてくれる聞き手を育てることで自分の良さを認めていきたいと考えています。パワーアップタイムなど思考を整理するとともに自分の思いや考えをもつ場を設定しています。

本校では、子ども・保護者・地域の皆様の願いをしっかりと受け止め、学校改善を図ることを目的に、これからも学校評価を計画的に実施していきます。その結果を分析・考察し、よりよい学校づくりに役立て参ります。アンケートのご協力、誠にありがとうございました。

令和2年度 後期学校評価アンケート

～よりよい学校にするために～

集計結果について

梅のつぼみも膨らみ始め、春の兆しを感じる頃となりました。平素は、本校教育推進のためにご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、本校の教育活動をより充実させるために、今年度9月からの学校生活について、児童・保護者を対象にしたアンケートを実施いたしました。結果についてまとめましたので、お知らせいたします。子どもたちの学校生活をよりよいものにするために、次年度の活動に生かしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

※数字は% ※上段が前期、 下段が後期	1・2・3年				4・5・6年			
	よくできている	できている	あまりできていない	できていない	よくできている	できている	あまりできていない	できていない
あなたは、楽しく学校に来ていますか。	67.8	21.6	2.7	8.1	51.0	36.7	8.2	4.1
	70.4	22.2	4.6	2.8	53.6	26.8	15.5	4.1
あなたは、自分には、よいところがあると思いますか。	50.0	38.9	8.3	2.8	42.9	31.6	20.4	5.1
	54.6	35.2	9.3	0.9	32.0	49.5	13.4	5.2
あなたは、友だちを大切にしていますか。	64.9	27.0	8.1	0.0	66.3	33.7	0.0	0.0
	81.5	13.0	4.6	0.9	57.7	40.2	2.1	0.0
あなたは、自分から元気にあいさつをしていますか。	32.4	56.8	10.8	0.0	42.9	41.8	10.2	5.1
	67.6	24.1	5.6	2.8	35.1	44.3	16.5	4.1
あなたは、目標をもってがんばっていますか。	48.6	28.6	20.0	2.9	60.2	26.5	9.2	4.1
	67.6	25.0	5.6	1.9	48.5	37.1	13.4	1.0
あなたは、むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。	43.2	43.2	10.8	2.7	36.7	41.8	19.4	2.0
	63.9	27.8	4.6	3.7	32.0	46.4	19.6	2.1
あなたは、学校の先生・教職員、目上の人や友だちにも、正しい言葉づかいで話していますか。	51.4	40.5	5.4	2.7	49.0	42.9	6.1	2.0
	63.9	27.8	7.4	0.9	36.1	52.6	10.3	1.0
あなたは、自分の思いや考えをしっかりと言っていますか。	50.0	19.4	25.0	5.6	38.8	37.8	19.4	4.1
	58.3	24.1	13.9	3.7	36.1	41.2	18.6	4.1
あなたは、授業の中で、友だちの意見を最後まで聞くことができますか。	63.9	27.8	5.6	2.8	60.2	35.7	2.0	2.0
	65.7	25.9	7.4	0.9	51.5	43.3	5.2	0.0
あなたは、進んで学習していますか。	54.1	29.7	16.2	0.0	44.9	43.9	10.2	1.0
	74.1	21.3	4.6	0.0	42.3	40.2	13.4	4.1
あなたは、家で読書をしていますか。	57.1	17.1	11.4	14.3	42.3	35.1	19.6	3.1
	61.1	19.4	12.0	7.4	39.2	44.3	11.3	5.2
あなたは、新しい生活の中で学校や家のきまりを守っていますか。	52.8	33.3	13.9	0.0	56.7	38.1	4.1	1.0
	65.7	25.9	7.4	0.9	44.3	44.3	8.2	3.1
あなたは、家でも、環境にやさしい生活をしていますか。	55.6	30.6	11.1	2.8	45.4	39.2	11.3	4.1
	68.5	23.1	6.5	1.9	41.2	45.4	10.3	3.1
あなたは、「早寝」「早起き」「朝ごはん」など、規則正しい生活をしていますか。	52.8	25.0	19.4	2.8	36.7	37.8	15.3	10.2
	60.2	21.3	14.8	3.7	29.9	33.0	27.8	9.3
自分で考えて行動できていますか。	50.0	33.3	16.7	0.0	49.0	38.8	11.2	1.0
	57.4	36.1	5.9	5.9	35.1	52.6	7.2	5.2

保護者の評価から

令和２年度 保護者

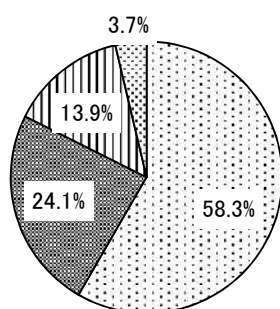
	実現度			
	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
子どもは、楽しく学校に通っている。	52.3%	40.6%	4.9%	2.3%
子どもは、自分のよいところを知っている。	24.2%	64.2%	10.9%	0.8%
子どもは、他人を思いやり、親切にしている。	31.2%	59.0%	9.4%	0.4%
子どもは、自分から元気にあいさつをしている。	20.3%	53.4%	22.9%	3.4%
子どもは、目標を持ってがんばっている。	33.1%	44.0%	19.5%	3.4%
子どもは、むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦している。	18.8%	44.0%	31.2%	6.0%
子どもは、適切な言葉遣いをしている。	19.9%	53.0%	24.8%	2.3%
子どもは、自分の思いや考えをしっかりとっている。	24.1%	49.6%	24.8%	1.5%
子どもは、話を最後まで聞いている。	20.7%	50.8%	24.8%	3.8%
子どもは、進んで学習をしている。	28.8%	43.9%	20.8%	6.4%
子どもは、家庭で読書をしている。	33.5%	30.5%	24.1%	12%
子どもは、家のきまりや社会のルールを守って生活をしている。	35.3%	54.9%	8.3%	1.5%
子どもは、環境に関心を持ち、環境にやさしい生活をしている。	24.9%	49.4%	23.0%	2.6%
子どもは、「早寝」「早起き」「朝ごはん」等、規則正しい生活を身につけている。	40.4%	43.4%	13.9%	2.2%
学校だより・ホームページ・学級だより等で、学校の日常の様子が保護者に伝わっている。	33.3%	57.7%	9.0%	0.0%

今年度の学校教育目標「自ら学び 心豊かに 未来を創造する子」を基に、めざす子ども像にある４つの「S」（Spiral-up, Share, Shine, Self-esteem）を視点に、考察を行いました。

<考 察>

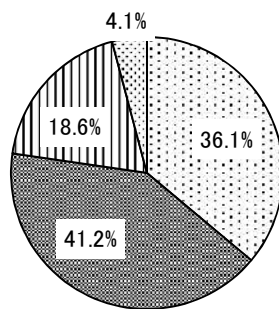
Spiral-up ～進んで学び、考えを深める子～

あなたは、自分の思いや考えをしっかりとっていますか。

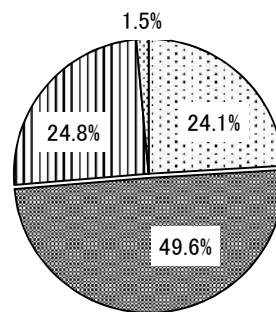


【低学年】

子どもは、自分の思いや考えをしっかりとっている。



【高学年】



【保護者】

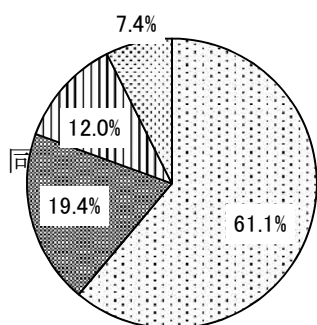
□よく出来ている
 ■大体出来ている
 □あまり出来ていない
 □出来ていない

「あなたは、自分の思いや考えをしっかりとっていますか。」をという問いには、「よくできている」「だいたいできている」合わせて低学年では約８２％の児童が、高学年では約７７％の児童が肯定的な回答をしています。肯定的に回答した児童の割合は、前期に比べて増えています。一方で、低学年では、約１７％、高学年では約２３％の児童に否定的な回答がみられました。

本校では、新学習指導要領で謳われている「主体的・対話的で深い学び」を大切に授業に取り組んできています。新しい生活様式の中で、グループ交流など制限されることもありますが、工夫しながら、その中で自分の思いや考えを伝え合うことを進めてきました。失敗を恐れたり、正しいかどうか不安を感じたりすることで言えない児童が多いと考えられますが、安心して意見を言える場の設定やクラス

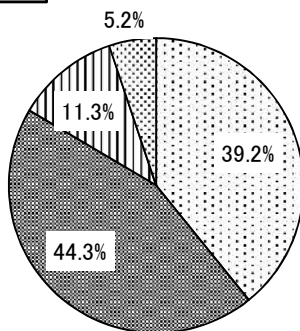
作り、友達の意見を聞く態度の育成に取り組んでいきたいと思っています。毎週木曜日に実施しているパワーアップタイムで思考ツールを活用し、子どもどうしが対話を通して自分の意見を深めていっています。今年度は最後に自分の考えを書きまとめ、友達と交流した後、取組を昇降口に掲示し学校全体での交流もしています。また授業での振り返りに書く内容を安祥寺中ブロックで共通理解し、学年ごとのめあてをもち取り組んでいます。授業の中でもった自分の思いや考えを書きとめ、交流し、充実させていくことを今後も引き続き取り組んでいきたいと思っています。

あなたは、家で読書をしていますか。

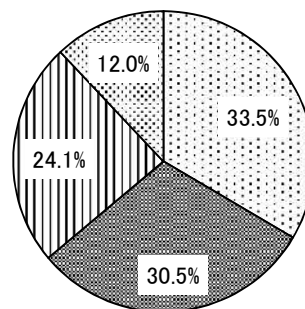


【低学年】

子どもは、家庭で読書をしている。



【高学年】



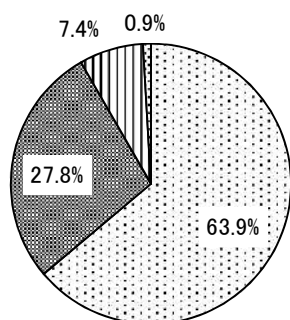
【保護者】

□よく出来ている
■大体出来ている
□あまり出来ていない
□出来ていない

前期の結果では図書館の活用状況の影響が見られましたが、結果を受け、学校では国語科の並行読書や生活科・理科・社会科・総合的な学習の時間等の調べ学習での図書館活用など、図書館の利用時間を増やす様にしてきました。家庭読書においては、毎月16日の「読書デー」や読書週間の「親子で読書」の取組にご家庭でも取り組んで頂き、親子で同じ本を読み感想を交流する良い機会になったとの感想をいただいています。今後もこの様な取組や、読書目標をもち「読書ノート」の活用などを続けていきたいと思っています。

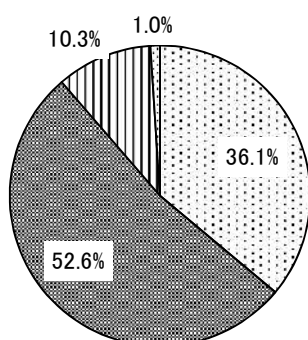
Share～認め合い、ともに高まり合う子～

あなたは、学校の先生・教職員、目上の人や友達にも、正しい言葉遣いで話していますか。

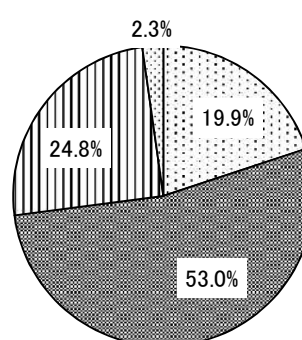


【低学年】

子どもは、適切な言葉遣いをしている。



【高学年】



【保護者】

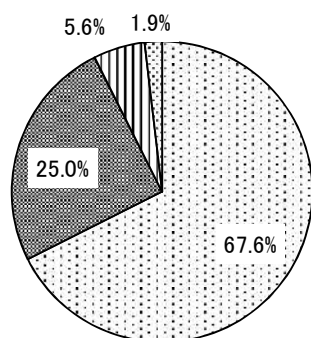
□よく出来ている
■大体出来ている
□あまり出来ていない
□出来ていない

「あなたは、学校の先生・教職員、目上の人や友達にも正しい言葉遣いで話していますか。」という問いには、「よくできている」「だいたいできている」合わせて低学年では約92%の児童が、高学年では約89%の児童が肯定的な回答をしています。

朝会や「なかまの日」での呼びかけや人権週間の取組などで、一人一人を大切にする心を育てています。友達を「さん付け」で呼んだり、正しい言葉遣いで話したりすることも相手を尊重していることに繋がります。日頃から人権感覚を大切に、言葉の一つ一つに相手を思いやる心をもって使っていきたいと思っています。

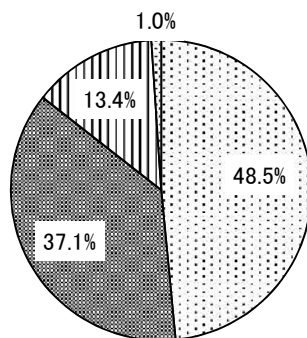
Shine～粘り強く、最後までがんばる子～

あなたは、目標をもってがんばっていますか。

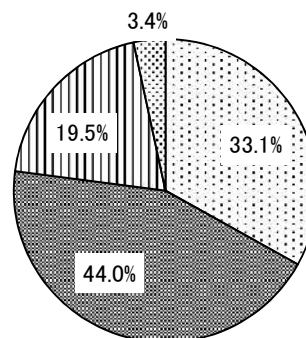


【低学年】

子どもは、目標をもってがんばっている。



【高学年】



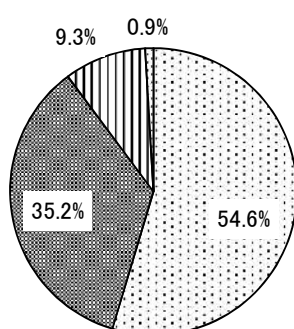
【保護者】

- よく出来ている
- 大体出来ている
- あまり出来ていない
- 出来ていない

「あなたは、目標をもってがんばっていますか。」という質問では、低学年では約93%の児童が、高学年では約86%の児童が肯定的な回答をしています。前期の低学年の結果より目標をもっている児童が増えています。制限が多い中ではありましたが、今年度から始まった「生き方探究パスポート」（京都市版「キャリア・パスポート」）を作成していきました。年度初めにたてた1年間の目標をはじめ、キャリア教育の視点で、スポーツフェスティバルなどの行事にも目標をもって取り組みました。また目標をたてるだけでなく、生き方探究パスポートに自分の目標やがんばりを記録していくことで自分の成長や良さに気づき、「なりたい自分」にむかってチャレンジしていきました。今後も身近な所から一つ一つ今の自分が挑戦できる目標を立て、到達することで達成感を味わい、目標にむけて頑張ることの良さを感じられるようにしたいと考えています。

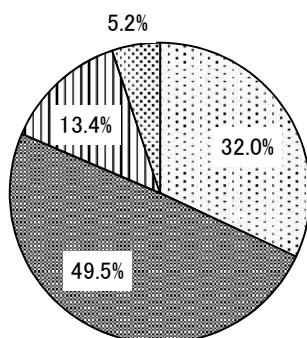
Self esteem～自己肯定感・自己有用感について～

あなたは、自分には、よいところがあると思いますか。

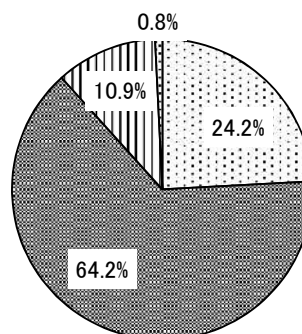


【低学年】

子どもは、自分のよいところを知っている。



【高学年】



【保護者】

- よく出来ている
- 大体出来ている
- あまり出来ていない
- 出来ていない

「あなたは、自分には、よいところがあると思いますか。」という質問で、低学年で90%、高学年で82%の児童が肯定的な評価をしています。ただ、低学年で否定的な回答が10%、高学年では19%あがっています。よりよい自分にむかって努力する姿があるので、よいところを声かけして気付けるようにしたり、自分や友達のいいところを認め合える学習を意識的に取り入れたりして、子ども達が自己肯定感を高められるよう、取組を進めていきたいと思っています。

本校では、子ども・保護者・地域の皆様の願いをしっかりと受け止め、学校改善を図ることを目的に、これからも学校評価を計画的に実施していきます。その結果を分析・考察し、よりよい学校づくりに役立てて参ります。アンケートのご協力、誠にありがとうございました。

